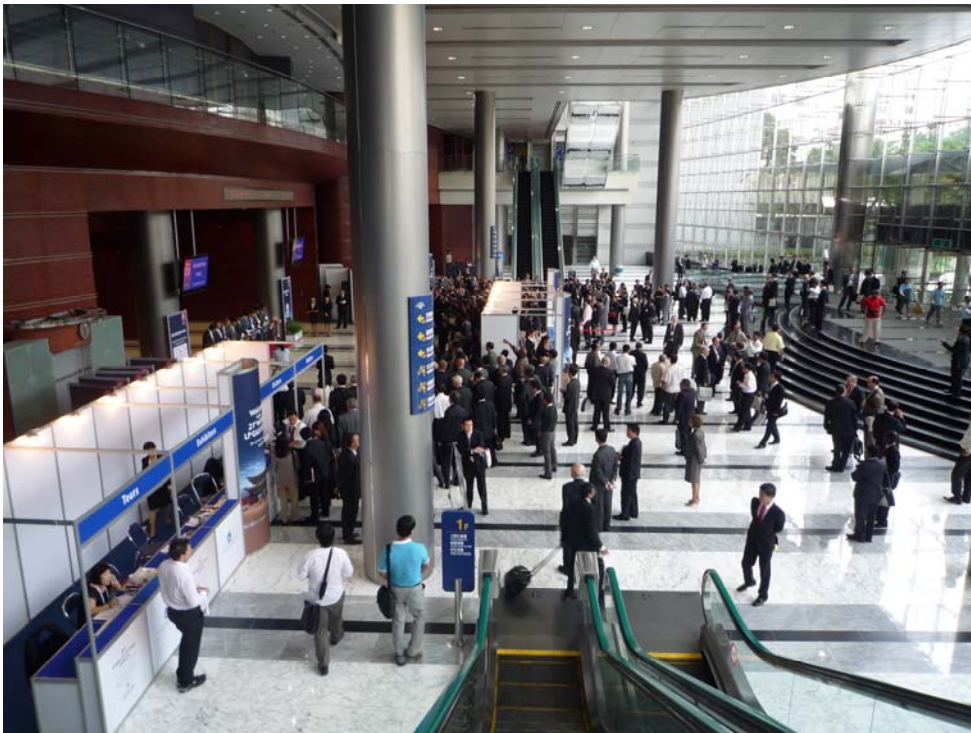


第21回世界LPガスフォーラム開催 韓国・ソウル

平成20年9月22日(月)～26日(金)、韓国ソウル COEX Convention & Exhibition Center(コエックス会議展示場)において第21回世界LPガス協会(WLPGA)フォーラム及び第2回世界技術会議(GTC2)が開催され、当エルピーガス振興センターからは、WLPGAの理事である加藤理事長以下が参加しました。

I. 世界LPガス協会の関連行事

会場受付



【GAIN、GLOTECほか】： WLPGAのメイン行事である総会、フォーラムの開催に先立ち、22日に同協会のネットワーク活動を行っている GAIN(Global Autogas Industry Network、オートガス関連)、GLOTEC(Global Technology Network、技術関連) 及び新たな活動であるCCWG(Climate Change Working Group、気候変動部会)の各会合が順次開催され、日本からは日協の三木田技術委員長や荒畑輸入協議会代表幹事が出席しました。

【Industry Council】： 23日早朝からは、同協会の主要決議機関であるIndustry Cou

uncil、産業諮問委員会)が開催されました。同委員会では日本のLPガス業界の永年の懸案でもあるHNS条約問題について、同委員会メンバーでもある荒畑代表幹事が問題の経緯、概要の説明を行い、WLPGAとして取り組むことが決定されました。

【理事会、総会】: 23日 昼食の後、理事会に続いて総会が開催されました。グリーンバーグ会長からの任期満了による退任申し出を受け、第一副会長であるIOC(インド石油公社)のベフリア総裁が新会長に選出されました。次期総会は来年10月7日～9日にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催することが決定されました。

【フォーラム】: 24日～25日 『LPガス 低酸素社会のためのクリーンエネルギー』をテーマにアジア・大洋州、欧州、米州、中東、アフリカ諸国など約50ヶ国、約500名の参加者の中で開催され、日本からは韓国に次ぐ65名の参加がありました。GTC(世界技術会議)のみの参加者並びにフォーラムに併設されたブース展示会の展示関係者・見学者を含めると約800名が参加しました。

フォーラム会場



・歓迎挨拶:

WLPGA会長、韓国LPガス協会会長、韓国環境大臣

・第1日目(24日)

(基調演説)

韓国知識経済大臣、世界銀行上級気候変動専門官

(セッション1) 世界及び地域におけるLPガスの展望 4講演

パービン&ガーツ、カタール・タスウィーク社、サウジ・ペトロリアム社

ゴールドマン・サックス社

(セッション2) 気候変動との闘い 4講演

エナジェテックス社、韓国公共財政協会、欧州LPガス協会、

ブラジル・ウルトラガス社

(ラウンドテーブル) 高価格環境における競合

参加者:エルガス社(豪)、アメリガス社(米)、SHVガス社(蘭)、
ガスコ・チリ社、昭和シェル(日)

・第2日目(25日)

(基調演説)

現代自動車社長、韓国環境政策研究所理事

(セッション3) アジアにおけるLPガスの新しい機会 4講演

C1エナジー社(中)、リライアンス社(印)、トタルDMEジャパン社、
SKガス社(韓)

トタルDMEジャパン社よりは遠藤副社長が講演。

(セッション4) 卓越したオペレーションに向けて 4講演

SHVガス社、HPCL社(印)、英国ガス協会、フェレルガス社(米)

(セッション5) 技術革新 5講演

米国プロパン教育研究協議会、エルガス社、レプソール社(スペイン)、
ガスコ・チリ社、ストラテジック・エナジー社(ナイジェリア)と
南アLPガス安全協会の共同講演。

II. 世界LPガス技術会議

フォーラム終了翌26日、2006年10月のWLPGAシカゴ大会での第1回GTC (Global Technology Conference、世界技術会議)での併催スタートから隔年で開催されことになった第2回GTCが行われました。

技術論文発表の様子



【論文発表】 同会議では世界中から提出されたLPガス関連の技術論文の内、資格審査を通過した48論文が、3セッションに分類され、各会場で同時並行の発表が行われました。

3セッション……A:世界オートガスの発展 B:操業技術 C:革新応用

日本からは、Aで2論文、Bで2論文、Cで4論文の計8論文の発表がなされ、開催国である韓国の12論文に次ぐ本数でした。

【日本よりの発表8論文】

……邦題訳は日団協報告による

- ①次世代LPG車へのLPガス品質の影響（日本LPガス協会）
- ②LPガスの品質調査（日本LPガス協会）
- ③非硫黄系着臭剤の開発（高压ガス保安協会）
- ④LPガスの直接合成（日本ガス合成株）
- ⑤家庭用LPガス燃料電池の開発と導入（新日本石油株）
- ⑥GHPとマイクロコージェネ（GHPコンソーシアム）
- ⑦LPガスによる家畜糞尿処理システムの開発（京葉ガス株）
- ⑧家庭用DME/LPG混合燃料の研究(エルピーガス振興センター)

【展 示】 フォーラム会場に隣接した展示会場では、48ブースで世界各国のLPガス関連機器の展示がありました。この他、現代自動車のLPG車の縦切り内部構造の展示や、会場外ではトヨタ・プリウス、ボルボ等のLPG車の実車も配されて、参加者が乗り込んで説明を受け、またLPG仕様のトラックも展示され、参加者の興味を惹いていました。

展示ブース



プリウスLPG仕様車



LPGトラック



現代のLPG車ボンベ



【日本に対する評価】

参加者数及びGTCにおける発表論文本数で、開催国韓国に次ぐ結果を残し、フォーラム運営にあたっては、講演に止まらず、ラウンドテーブルへの参加、セッションのチェアマンという重要な役割を担ったことにより、日本の協力に対してWLPGAより非常に高い評価と感謝が寄せられました。

※ 後日、GTCでの主要或いは特徴的な論文の概要について、発表者等の了解等を得た上でご紹介する予定です。

以 上